

活動紹介

千葉県森林インストラクター会

活動分野	いすみ環境と文化のさとセンターイベント		
タイトル	万木城の歴史と里山の自然観察・海辺の植物観察		
実施日時	2019年4月20日(土) 10時~15時 2019年7月21日(日) 9時30分~12時30分		
実施場所	いすみ市 いすみ環境と文化のさとセンター		
受講者	6名	FIC会員他スタッフ	1名

活動の内容

『万木城の歴史と里山の自然観察』

センターにて、職員によるこの日のルートやトウキョウサンショウウオの卵のうの様子などについての説明後、センターを出発。春の里山の新緑と野草を観察しながら、湿性生態園を通るとシャクが花を咲かせ始めていました。山菜にもなるシャクは、葉をちぎってもむととてもいい香りがします。ここから、クロモジやヤブニッケイの葉、カンアオイや苔など色々な植物の匂いを手にとって嗅いでもらいました。万木城公園では、市郷土資料館職員から中世の房総戦国史について、展望台からの地形を読み解きながらの説明。その後、海雄寺まで下り、寝釈迦を拝観後、センターに戻ります。途中、オドリコソウの群落があり、里山の春を堪能しながらの観察会となりました。



オドリコソウ



タフノキ



解説

『海辺の植物観察』

センターに集合してから、国指定天然記念物第一号「太東海浜植物群落」に向かいます。群落では、スカシユリが4分咲き程で、まだまばらに咲いています。ハマボッスやボタンボウフウ、ラセイタソウなど花をつけている海浜植物を見ながら、群落を訪れた植物学者達、指定当初の群落の様子と荒波で大部分が海中に没してしまったこと、8年前の東日本大震災が起こった時の様子など、群落の歴史をふり返りました。その後、夷隅川河口の湿地へ足をのぼし、ハマゴウやイワダレソウ群落を見ました。例年花をつけているハマボウはまだかたいつぼみ、いつも見られるアメリカネナシカズラは場所を変えて健在です。釣客が釣っていたドチザメも見ることができました。この日は目視できませんでしたが、アカウミガメやコアシサシなどここで見られる希少種についても話をしながら、群落と干潟の豊かな生態系を再確認しました。



ハマゴウ



解説



イワダレソウ